

かみつみやしやうとこのみこ
上宮聖徳皇子、竹原井に出遊でます時に、
たつたやま しにびと み かなし
竜田山の死人を見て悲傷びて作らす歌一首

四一五番

いへ
家ならば 妹が手まかむ 草枕 旅に臥やせる
たびと
この旅人あはれ

おほつのみこ
大津皇子、死を被りし時に、磐余の池の堤に
なみた なが つく
して涙を流して作らす歌一首

四一六番

いはれ
ももづたふ 磐余の池に 鳴く鴨を 今日のみ見
くもがく
てや 雲隠りなむ